

外来 1・2 階

- 1 階： 整形外科、リウマチセンター、がん診療部（脳腫瘍ユニット・前立腺ユニット）
生物学的製剤点滴室、術前外来
- 2 階： 糖尿病・内分泌・栄養内科、免疫・膠原病内科、血液内科、消化器内科、
腎臓内科、高齢者ユニット、呼吸器内科、循環器内科、脳神経内科、脳神経外科、
歯科口腔外科

1. 部署の特徴

外来 2 階全診療科と外来 1 階のがん診療部、生物学的製剤点滴室に関わる看護業務を担当している。外来 1・2 階の 1 日平均受診患者数は 1200～1500 名であり京大病院受診患者数の半数を超える。2 階南処置室と北処置室を拠点に、エリア内診療科の診療・処置介助、注射や点滴などの実施、検査・治療説明、自己注射指導や生活・療養に関する患者指導、治験など多岐にわたる業務を担っている。2 階北処置室では、輸血をはじめ、骨髄検査なども日常的に行われている。造血幹細胞移植後のフォロー（月・木・金/週）については病棟看護師と連携、HIV 外来（毎週水・金曜日）においては、HIV 専任看護師らを中心に診療の補助や患者面談などを行い、1 回/月 HIV ミーティングを開催し、医師や看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、事務部門と連携しながら多職種協働で患者のサポートをおこなっている。また糖尿病患者については看護外来において、フットケアや糖尿病透析予防指導（医師・看護師・栄養士のチーム医療）、病棟看護師との連携も行いながら多職種協働でのカンファレンスを開催し（第 3 木曜日/2 ヶ月）、チーム医療に取り組んでいる。

2 階南処置室では、循環器内科の心不全や心筋梗塞、呼吸器内科では呼吸不全の患者などに対して、来院時や待機時のトリアージをはじめ緊急時の対応など、的確なアセスメントに基づいた看護ができるよう知識や技術の向上に取り組んでいる。また、心不全患者に対する療養指導やてんかん患者指導、在宅酸素患者療養指導など、病棟と外来、そして地域医療と連携しながらシームレスなケアを提供できるよう取り組んでいる。

1 階の生物学的製剤点滴室では、220 名前後/月の患者の点滴治療を行っている。診療科は消化器内科、血液内科、免疫膠原病内科、リウマチセンター、眼科、皮膚科など多岐にわたる。昨今の医療提供体制の変化や在院日数の短縮に伴い、外来看護に高い専門性が求められ、療養支援などセルフケアに関する外来看護師の役割も益々増大している。患者・家族の QOL や Well-being の向上を目指し、看護の専門性を発揮しながら、処置室間の応援体制をはじめ、病棟-外来連携、地域のリソースとの連携を図り、より患者のニーズに沿った質の高い看護を提供し、患者の療養生活の質向上に取り組んでいる。